

序論

人間は自分の気持ちを表現するために、言語を必要とする。使用する言語は会話の場面に合わせて調整する。その場面に合わせる言語は、言語のスタイルと呼ばれている。日本語では、男性と女性が異なる言語のスタイルを持っている。女性の言語のスタイルは女性語だと呼ばれている、男性の言語のスタイルは男性語だと呼ばれている。真田（2000：19）は、男女の間で使用する言葉に相違が見られることは、日本語の一つの特徴であると思われる。真田（2000：19）会話における日本語は、文字にした場合でも、話し手が男性であるか女性であるかが変わるのが普通であるとされる。その意見によると、日本語では、女性の言葉と男性の言葉があるということが分かる。たとえば、終助詞と人称代名詞である。

女性語の終助詞と男性語の終助詞は異なる。女性語の終助詞は「わ」ですが、男性語の終助詞は「ぞ」、「ぜ」、「だろう」である。しかし、「よ」と「ね」は男性も女性も使用できる。終助詞の他に人称代名詞も男性の言葉と女性の言葉が違う。第一人称代名詞の「私」は男女で使用するのですが、「わたくし」は女性語で女性しか使用できない。男性語の第一人称代名詞は「僕」と「俺」である。第一人称代名詞のように、第二人称代名詞も

男性の言葉と女性の言葉が異なる。「あなた」の第二人称代名詞は男性も女性も使用するのですが、「君」と「お前」は男性しか使用できない。そして、女性の言葉は「あんた」である。

本論

言語は文化の一部である。文化が変わると、言語も変わる。そのとき、言語のスタイルの変化がある。東所持（1997：83）は、日本語は、男性の言葉あるいは女性の言葉のように、男性あるいは女性だけの独特の言葉 (*gender-exclusive speech*) がある言語だといえよう（もつとも *gender-exclusive speech* の使用頻度はだんだん減ってきているようだが）。女性語と男性語の使用の変化がある。女性は男性語を使用する。そんな事、曲の歌詞に発生する。曲の歌詞を作る女性は歌詞に男性語を使用する。この歌詞を見て下さい。

大人の僕も傷ついて。

眠れない夜はあるけど。

その歌詞はアンジェラ・アキの「手紙」の曲からである。その曲にアンジェラ・アキは「僕」を使用する。アンジェラ・アキは女性なので、「僕」を使用できない。「僕」は男性語の一人称代名詞であるから、それは変化である。

曲のメッセージを強調したいので、アンジェラ・アキは男性語を使用する。アンジェラ・アキの希望は日本の若者たちが夢を追いかけることである。メッセージが伝えられるように、男性語を使用する。

これはジョーデンが言うとおりに、男性語は女性語よりダイレクトである。他の原因は作詞家の背景である。大学生ときに、アンジェラ・アキはアメリカに住んでいた。このことはアンジェラ・アキの言語スタイルに影響する。アメリカには、女性語と男性語はありません。このような背景は人の言語スタイルに影響する。

曲のメッセージを強調したいので、変化が起こる。その他の原因はフェミニズムである。家内良子はチャロtte・バンチに、70 年の中旬に、アメリカとヨーロッパのフェミニズムの理論が日本語に訳する。作詞家として働いていた女性は、作った曲に男性語の使用を開始する。

結論

これは日本語の曲における女性語の変化の原因である。

1. フェミニズムは女性の言語スタイルを影響する。

70年の終わりに、フェミニズムの理論が日本語に訳する。80年の中旬、作詞家は曲に男性語の使用を開始する。

2. 作詞家の背景である。

作詞家の背景は作詞家の言語のスタイルが影響される。

3. 作詞家の環境である。

作詞家の環境は作詞家のコミュニケーションがおこる場所である。ですから、環境は特別の言語のスタイルを持っている。そしてその言語は、作詞家の言語のスタイルを影響する。

4. 作詞家は曲のメッセージを強調したいである。

男性語は女性語よりダイレクトである。女性語は聞き手に本気で話せできません。曲の聞く人は曲のメッセージがよく伝えられるように、作詞家は男性語を使用する。

5. 曲を聞く人々の言語スタイルに合わせて調整する。

メッセージがよく伝えられるように、曲を聞く人々の言語スタイルに合わせて調整しなければなりません。

DAFTAR ISI

| | |
|--|----|
| Kata Pengantar | i |
| Daftar Isi | v |
| BAB I PENDAHULUAN | 1 |
| 1.1 Latar Belakang Masalah | 1 |
| 1.2 Rumusan Masalah..... | 11 |
| 1.3 Tujuan Penelitian..... | 11 |
| 1.4 Metode dan Teknik Penelitian..... | 11 |
| 1.4.1 Metode..... | 11 |
| 1.4.2 Teknik Kajian..... | 12 |
| 1.5 Organisasi Penulisan..... | 13 |
| BAB II KAJIAN TEORI | 14 |
| 2.1 Sosiolinguistik | 14 |
| 2.2 Identitas Sosial Penutur dan Penutur | 22 |
| 2.2.1 Perbedaan Secara Leksikal..... | 22 |
| 2.2.2 Perbedaan Secara Fonologi..... | 23 |
| 2.2.3 Perbedaan Menurut <i>Ninshoudaimeishi</i> (人称代名詞)..... | 27 |
| 2.2.4 Perbedaan Berdasarkan <i>Shuujoshi</i> (終助詞)..... | 30 |
| 2.3 Hubungan Bahasa dan Kebudayaan | 33 |
| 2.3.1 Feminisme dalam Negara Jepang..... | 35 |

| | | |
|----------------|--|--------------|
| 2.4 | Variasi Ragam Lingkungan..... | 38 |
| BAB III | PERGESERAN PENGGUNAAN 女性語 DALAM LAGU | |
| | BERBAHASA JEPANG..... | 41 |
| 3.1 | Analisis Pergeseran 女性語 dalam Lagu Berbahasa Jepang..... | 41 |
| | 3.1.1 Lagu pada Era 70-an..... | 42 |
| | 3.1.2 Lagu pada Era 80-an..... | 45 |
| | 3.1.3 Lagu pada Era 90-an..... | 50 |
| | 3.1.4 Lagu pada Era 2000..... | 54 |
| BAB IV | KESIMPULAN | 75 |
| | SINOPSIS | viii |
| | DAFTAR PUSTAKA | ix |
| | KORPUS DATA..... | xiv |
| | RIWAYAT HIDUP PENULIS..... | xliii |